

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立伊岐佐小学校		
1 前年度 評価結果の概要	○標準学力調査の結果は全国・県・市の平均を上回り概ね良かったと言える。新学力観に基づく授業改善も校内研究により進んでいるが、学力の個人差(2極化)や学習満足度にはまだ課題が残っている。 ○教職員の市民性を育む教育の理解や実践に個人差があり、学校全体の取組にまでは至っていない。 ○全職員の意識化により、かなり業務改善が進んだが、児童数減少により、さらに教育効果に見合った教育内容の精選・充実が必要である。		
2 学校教育目標	確かな学力、豊かな心、健やかな体 ～知・徳・体のバランスのとれた力をはくむ～		
3 本年度の重点目標	○(新)学習指導要領の理解と理念に基づいた指導法改善 ○多様性を尊重し、いじめを許さない学校風土づくり ○地域連携行事・地域への貢献活動への積極的参画・参加 ○教育の質の向上を担保しながらの業務改善		

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目									
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上	<ul style="list-style-type: none"> 単元で身につけたい資質能力と単元計画を児童と共有して、授業に臨む。 年に2回以上の授業公開を行い、授業検討会で学ぶ。 自己の学びを自覚できるよう、ふりかえりの指導法改善を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 単元計画や資質能力を児童と共有して授業に臨み実践や自己の学びを自覚できるふりかえりの指導法改善については、講師招聘を行い、校内研修を続けている。 授業公開後その日のうちに検討会を行い、記録を配付し情報の共有を行っている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業を担当している職員は全員、年2回以上の授業公開、授業検討会を行った。検討会では、視点を絞って意見を出し合い、授業改善に活かした。 児童が自己の学びを自覚できるようふりかえりの指導の場面、手立て等、全体での共有を図り、個々の授業に活かしている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 小規模校のよさを生かしたきめ細かな指導の下、いきいきとした授業の様子を参観することができた。県学習状況調査の結果も素晴らしい。児童の学力の2極化、固定化の解消の困難さ、努力・工夫は理解したが、今後も解消のためさらに努めてほしい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳の授業において、①自分ごととして②多面的・多角的なふりかえりをしていく児童70%(振り返り分析)	<ul style="list-style-type: none"> 児童が考えをさまざまな形で出し合い、つなげて、考えを深めることができるような授業の形態を工夫する。 道徳の校内研修で、ワークシートの分析を行い、指導法を見直したり、学び合ったりする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業後のふりかえりでは、自分ごととして、考える児童が増えてきたが、多面的・多角的なふりかえりをしていく児童は、まだ半分に満たない。児童が道徳的価値を多面的・多角的に考え、自分の生き方について考えられるような授業改善のための研修会を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的価値を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深められるような、授業改善を進めている。道徳的価値内容を自分ごととして考え、多面的・多角的な振り返りをする児童が増えてはきたが、まだ十分ではない。職員研修でさらに指導方法を研究し、実践を続けていく必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 伊岐佐小の児童は倫理観が高く、特に悪いことをしたという話は聞かない。伊岐佐小が目指す「自分のこととして」「価値を多角的・多面的に」考えるような道徳科の授業に向けて、今後も指導法の改善をお願いしたい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止に向け、開発的・組織的対応ができていると回答した教職員80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 毎月「こころのアンケート」を確実に実施し、児童理解研修会で全職員が確認(児童理解)をする。 未然の対応を本校のスタンダードとするよう児童理解研修会で対応を共有する。 事案発生時は、ケース会議で情報を共有し、体制を作って対応する。 児童に考えさせる指導に努め、児童の実態(思考や経験)に合った指導を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童理解研修は、機能している。しかし、未然の対応についてはまだ不十分などもある。生徒指導主任を中心に開発的・組織的な取り組みについて全職員で共通理解の必要がある。 事例発生時は、組織で迅速に対応できている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止や子どもの相談体制などについて、職員の意識は高く、丁寧に対応している。保護者アンケートでも「子どもの相談や悩みなどへの適切な対応」は3.3でほとんどが高い評価だった。 アンケートで発見した場合は個別に、聞き取りと記録の二人体制で対応し、児童理解研修で対応できた。また、気になる子は次年度につなぐ資料を作成し、金庫に保管した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止対策委員会でも、伊岐佐小が保護者や児童の相談にすぐに対応している状況は確認している。また、教育委員会への報告も法に則って行われていることを理解した。学校の取組は評価する。今後ともいじめ防止の取組を続けてほしい。
	◎地域のために役に立ちたいと思う市民性を育む教育活動	○「出番、役割、承認」のある教育活動を計画的に実施していると回答した教職員80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 運動会をはじめとする校内の諸行事・集会への招待活動を積極的にを行い、児童のやる気を促す。 相知町文化祭や三光神社奉納相撲への参加、長寿の里訪問や銀杏の販売等、地域と結びついた取り組みを積極的に実施する。こうした取り組みに目的意識をもって取り組む中で児童に市民性をはくむ。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年間カリキュラムに従って、そば作りなど地域住民を外部講師とした学習を行い、地域の方々の想いを学んだ。また、グループホームとの交流や銀杏販売など地域へ出て行って貢献する活動を行っている。しかし、教師の指示で活動している児童もいるので、目的意識を持たせる手立てを工夫する必要がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の下、行事参加の見直しは求められたが運動会、銀杏販売、長寿の里訪問、そば作り、小学生駅伝大会等に積極的に取り組むことができた。アンケートで全職員が3ポイント以上と評価し、殆どの児童が郷土に対して貢献したいという回答している。 今年度はこれらの取り組みの多くを総合的な学習に位置付け、児童にとって目的意識的な活動に高めることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> テレビニュースや学校HPで教育活動の様子はよく見ている。地域の人をゲストティーチャーに招いての学習活動や地域に立ち向うての活動をしたりして、地域の役に立ちたいという気持ちを育成していることは大いに評価できる。
●健康・体づくり	②「望ましい生活習慣の形成」に向けて、自律的に生活しようとすることの良さと意識を育む教育活動	○「生活習慣100点運動」で自分のためてめあてを達成できたと回答した児童80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 学期に1回(6月10月2月)の取り組みをメールや学校便り・学級通信等で、積極的に発信し、保護者の意識向上を図ることで児童の行動化につなげる。 SNS等の使用についてアンケート調査を実施し、集計考察を発信することで生活の見直しをさせる。 むし歯予防、歯磨きの習慣化を定着を目指し、発達段階に応じた保健指導を実施し児童の成長を促す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「生活習慣100点運動」でのめあてを達成できたと回答した児童は、80%以上。結果から今後の生活の改善をしようという感想が多く、家庭の協力で熱心に取り組んでいる。しかし、取り組みには、個人差があり、適宜、学級指導で考えさせる機会を作っていく。 朝昼の歯みがきをしている児童は95%と高い。しかし、夜の歯みがきを忘れることがある児童が22%いた。学級指導のみならず、歯科校医による歯みがき講話を実施し、歯みがきの必要性を再確認させることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「生活習慣100点運動」でのめあてを達成できたと回答した児童は、88%以上。結果から今後の生活を改善しようという意欲を感じられた。6月11月の結果やコメントなどを保護者に知らせ啓発した。SNS等の使用状況に関し市から出たアンケートを実施し、ひまわり講座や懇談会にて使用マナーについて呼びかけた。 むし歯保有者13人は全員受診完了。定期健診を含め歯科受診者は85%という意識の高さが伺えた。なお、未受診者15%はむし歯なしだった。歯みがきについては昼夜の歯みがきはほぼ100%実施できていた。11月に実施した歯科校医の講話も良い結果につながった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣を定着させるため、いろいろな取り組みをして成果を上げていくのは評価できる。特に虫歯予防で、定期健診など家庭の啓発をし、夜の歯みがき率が上がったのは素晴らしい。スマートフォンやインターネットの利用については、危険性等の家庭啓発に力をいれてほしい。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	<ul style="list-style-type: none"> 事前の部会開催により、職員連絡会10分以内、職員会議60分以内の徹底。 校内研の簡略指導案を使用。 校内研の授業検討会30分の厳守。 行事振り返りの活用による行事の精選・充実。 時間制改善を受け、マラソン指導や銀杏拾い等の時間外対応の指導をなくす。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 10月までの月間平均時間外勤務時間が月45時間以下の職員は、94%である。3月までに100%を目指す。 会議60分以内を達成しているが、部会での話し合いが十分とは言えない。職員連絡会については、5～10分程度の超過をしている。簡潔な連絡など徹底していく。 マラソン指導については校時限の工夫により、放課後の指導が可能となった。銀杏洗いについては、婦人会に依頼することで職員の負担が減った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1月の月間平均時間外勤務時間が月45時間以下の職員が100%を達成した。職員は、放課後の時間を有効に活用し、教材研究や事務処理を行った。 簡略指導案と交際案30分以内に職員の負担軽減となった。また、活発な意見交換に繋がった。 職員連絡会では発言予定者を掲示することで、簡潔な発言を一人一人が心がけ、短縮をすることができた。しかし、職員会議の質的充実を図る必要がある。 文書データとファイルの共有の意識を高め、さらなる効率化を図っていく必要がある。 	B

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)							

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育									
5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上については、単元計画や資質能力を児童と共有して授業に臨み手立て、自己の学びを自覚できるふりかえりの指導法に成果が見られた。次年度については、学力の2極化、固定化という課題の解消を研究の指標のひとつとして、指導の質的改善を図っていけるようにしたい。 心の教育については、いじめの未然防止や市民性の育成に職員一丸となって取り組み、成果を上げることができた。次年度、道徳の授業について「自分のこととして」「価値を多角的・多面的に」考えるような指導法について職員研修等でさらに共通理解を図り、児童の道徳性を養う指導法へと改善を進めていく。 インターネットやゲーム、携帯電話(スマホ)に関する様々な問題についての講演参加を保護者に積極的に呼びかけたり、学校だよりや学級通信等で情報を提供したりして、保護者への啓発を行っていく。 業務改善については、年間を見通した職員会議の提案を進め、時間短縮だけでなく内容の充実を図っていく。 								